

編集後記

雑誌名	能楽研究：能楽研究所紀要
巻	12
ページ	182-182
発行年	1987-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020383

能楽研究所図書閲覧の案内

○学生・研究者・能楽関係者・一般人はどなたでも閲覧できます。ただし、閲覧の範囲が貴重本(古写本・古版本、寄託本等)におよぶ場合は、学生は指導教授またはそれに代わるべき人の、能楽関係者・一般成人は研究者・所属団体等の、紹介状を必要とします。

○閲覧日は毎週の火・木・金曜日(祝日等を除く)で、閲覧時間は午前9時30分から午後4時までを原則とします。ただし、大学が休暇に入る7月中旬から9月上旬まで、12月下旬から1月上旬まで、3月中旬から4月上旬まで、及び入学試験の期間は、原則として閲覧業務を休止します。この期間に緊急の事情で閲覧を希望される研究者は、事前に了解をとって下さい。(土曜日を金曜日に変更しました)

○閲覧場所が狭く(8名が限度)、閲覧者が集中しますとお断りせざるを得ないことがあります。あらかじめ電話等で調査目的・閲覧希望図書を連絡して下さることを希望します。閲覧希望図書に貴重本を含む場合は一週間前までに御連絡下さい。○文献の複写は別に定める規定の範囲内で可能ですが、写本・版本の類のコピーはできません。写真撮影および既存フィルムからの引伸しは許可制で、かつ限定がありますので、事前に確かめてから申し込んで下さい。他家所蔵文書のフィルムからの引き伸しは、所蔵者の同意が必要です。

〔編集後記〕 表の論考は前号までの「古七大夫考」の補遺的なもので、喜多流の歴史についてはしばらく筆を休めるであろう。落合稿は前号に翻印した『四季祝言』の内容に関する論で、広範な調査を背景とする緻密な考察は推奨に値する。この四月に東大の博士課程に進む氏をはじめ、次つぎと若手が出現しているのが能楽研究の現状である。米子工専の永井氏が翻刻・解説した祝本は、鴻山文庫所蔵本であり、所員が先にその価値に気付くべき資料だった。宝の山で眠っていたことに恥じ入るが、法政の大学院を出てからも休暇のたびに研究所へ来て資料を調べていた氏の熱意が、天正狂言本に次ぐ好資料の発掘につながったと言えよう。西野所員担当の研究展望が次号回しになったのと、年度内発行にすら遅れたことを遺憾とする。(表章)

昭和六十二年三月三十一日 発行

能 楽 研 究 第十二号

102 東京都千代田区富士見二一七ー一

〇三ー二六四ー九八一五

編集兼 野上 法政大学能楽研究所
発行者 記念

所長 表 章

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八三二ー一